

市民一人一人に寄り添った政治、生きにくさを希望に変える政治をめざす。

私はこれまで地域の中で様々な活動を市民のみなさんと一緒になって活動してきました。それは高齢者食事サービスの活動（24年間）公園での清掃や花植えの活動、生活協同組合での食の安全を守る活動などです。

住民運動と議員活動が一体となった活動だったと思います。

1955年に現山陽小野田市に生まれた私は、厚狭川で兄たちが魚釣りをして遊ぶのにくっついて、時にはチャンバラごっこに興じる子どもでした。偏差値教育の真ただ中でその流れで熊本に行き、そこで水俣病闘争などに会いました。「公害」の原点を前に立ちすくみつつ、おぼろげながら、いのちをまもる・守られる社会を創らなくてはと思い描いものです。



就職のために上京し、二つの中小企業で働きました。また区議選出馬のため辞職した会社の労働組合では、執行委員を5年ほど勤めました。

1994年の区議会初当選からずっと、私は市民派無所属として活動してきました。無党派市民の代弁を、いくばくかは実現できたのかなと自負しています。

今般、安倍政権のもとで人々の安心と安全が危うくされる中、私は国政への挑戦を決意しました。一年前くらいから準備を進めてきましたが、当然現職を優先するわけで、かなりハードな期間ではありました。

この突然の解散は本当に安倍さんの身勝手さによるもので、私は心底憤っています。しかし望んで挑戦することを決意したわけですから、市民の幸せのために、角界各層のみなさんに広く協力を求め、勝利に向かって頑張りぬく決意です。

次に政策の大項目を記します。

(1)福祉・社会保障制度の充実(2)地域復権—就農・林業家育成と所得補償、製造業・ものづくり支援、中小企業後継者支援、商店街空き店舗活用、自治体権限強化(3)人口対策、東京一極集中をはいし、雇用創出。(4)財政再建(5)国際平和

またいくつかの具体的政策です。

●超高齢化社会をどうするか、全国合計8.9兆円の介護保険歳出

若いときに老人介護した時間を「貯蓄」し自らの老後にその時間を使って介護サービスを受けられる「時間銀行」のシステムや、シンガポールの介護版のMSA（年金のように「積立方式の長期保険」）を参考に施行15年の介護保険制度を抜本的に改革する。

●移動支援(ガイドヘルプ)の拡充

障害者が入所施設を出て、住み慣れた地域で暮らす「地域以降」を推進する障害者自立支援法、現在の障害者照合支援法が施行されてから約10年、その自立生活を支えるヘルパーが足りない。学校教育の一環としてガイドヘルパー実習を取り入れてはどうか。サービス単価を上げ人材育成に取り組む。

●無駄を排し財政再建を。

そもそも2%経済成長という安倍政権の見通しも眉唾だが、成長率が現状に近い1%弱の場合、赤字幅は10.7兆円に拡大する。黒字化は絶望的。賃金・俸給の課税に比べ、不公平感ある株式への課税など徹底した税制改革で財政再建を行う。若者に付け回してはいけない。(安倍首相は20年のPB達成を放棄することを先日公表)

●もりかけ問題徹底説明

加計学園設計図面は詳細でないが、危険な動物実験実行部が無造作に配置されるなど、10月に設置許可認可決定が延期されたが、まじめに考えて、これは設置許可を下すのは間違いだ。

両問題とも「補助金詐欺事件」だけではない。徹底説明を進める。